

調査研究終了報告書

研究分野：ダイオキシン類，有害化学物質による健康被害の防止とその対策に関する研究

調 査 研 究 名	医薬品成分を含有した健康食品の検査法の開発
研究者名（所属） ○印：研究代表者	○森田邦正，毛利隆美，中川礼子（生活化学課）
本 庁 関 係 部 ・ 課	保健福祉部・薬務課
調 査 研 究 期 間	平成16 度 - 17 年度 （2 年間）
調 査 研 究 種 目	1. ■行政研究 □課題研究 □共同研究（共同機関名： ） □受託研究（委託機関名： ） 2. □基礎研究 □応用研究 ■開発研究 3. □重点研究 □推奨研究 □ISO推進研究
ふくおか新世紀計画 第2次実施計画	大項目：安全で安心して暮らせる生活の確保 中項目：平穏で安全な県民生活の確保 小項目：自薬物乱用防止対策の推進及び豊かで安心できる消費生活の確保
福岡県環境総合基本計画 （P20,21）環境関係のみ	柱： テーマ：
キ ー ワ ー ド	健康食品 医薬品 ダイエット 薬物 成分分析 HPLC
研 究 の 概 要	
1) 調査研究の目的及び必要性 厚生労働省の無承認無許可医薬品情報には、いわゆる健康食品による死亡を含む健康被害が多数報告されている。健康食品については、常日頃から情報収集・評価等を行うとともに、最悪の事態を想定して、健康被害の未然防止に向けた対策が必要と考えられる。また、苦情・相談等のあった健康食品と健康被害との因果関係が疑われる場合（緊急時）は、製品名の公表、製品の流通防止のための措置として、ただちに、健康食品中の医薬品成分の確認が求められる。特に、いわゆるダイエット用健康食品に混入されるおそれのある食欲抑制剤、甲状腺ホルモン剤、下剤等の検査法の開発を行うことが急務と考えられる。	
2) 調査研究の概要 医薬品成分が発見された健康食品や健康被害が報告された健康食品についての情報を入手し、その医薬品成分の化学的性状及び分析技術に関する論文等を調査する。標準試薬を入手後、医薬品成分を含有した健康食品の検査法について検討する。	
3) 調査研究の達成度及び得られた成果（できるだけ数値化してください） 下記の医薬品成分等について、高速液体クロマトグラフ（HPLC）を用いた検査法を開発した。 甲状腺末， リオチロニンナトリウム及びレボチロキシンナトリウム， 脱N - ジメチルシブトラミン及びシブトラミン， ビサコジル， 塩酸ヨヒンビン	
4) 県民の健康の保持又は環境の保全への貢献 開発した検査法は、迅速分析法であるため、健康食品と健康被害の因果関係が疑われる場合や、広告等の情報で医薬品成分の混入が疑われる場合、速やかに成分検査を実施できる。このことは、製品名の公表、製品の流通防止のための行政措置・対策に寄与することができる。また、県民の健康被害を未然に防止することにつながる。	
5) 調査研究結果の独創性、新規性 健康食品中の医薬品成分の検査法を検討・実施している機関は全国の地衛研の中でも少ない。またその報告数も少なく、本検査法は独創性、新規性が高い。	
6) 成果の活用状況（技術移転・活用の可能性） 開発した検査法は当所で、すでに健康食品の収去検査に活用している。全国の地衛研等の試験機関が技術移転の対象となる。	